

校長室だより 7月号

むしむしと暑い日が続き、あっという間に7月となりました。例年なら、あと少しで夏休みというところですが、今年は、新型コロナウイルス感染症への対応で臨時休業が長期化し、子どもの学習機会を保障するため、夏休みを大幅に短縮しました。前にもお知らせしたように、夏休みは8月8日～8月19日までの12日間となっています。また、今年の夏も、猛暑が予想されます。新型コロナウイルス対策と熱中症対策に気をつけながら、安全に学校生活を送れるようにしたいと思います。

身のまわりに花や緑があるって、いいですね

子どもたちがお世話をしている花や植物がどんどん生長しています。生長するのにいい時期となり、日増しに大きくなり、花を咲かせ、実をつけ、子どもたちも楽しみにしています。朝の水やりの際も、「うわっ、青い花が咲いとる」「ミニトマト、赤くなってる。おいしそう」といつも新しい発見をし、にぎやかです。また、正面玄関に置いてあるサルビアの苗一本一本にていねいに水をやっている姿もあります。植物を育てるという体験から、自然のすばらしさやきびしさなど、子どもたちは様々なことを学んでいきます。



校地内は、子どもの活動場所です

6月中旬の朝、1年生数名が校長室にやってきました。汗をいっぱいかき、「校長先生、運動場のゴミを拾いました」とゴミの入ったビニール袋を持ってました。「うわっ、こんなにいっぱい。学校をきれいにしてくれて、ありがとう」とわたしは子どもたちにお礼を言いました。それからこのようなことが何回も続きました。子どもたちがもってきたゴミ袋をみると、木の枝や葉っぱはわかるのですが、お菓子の包み紙、たばこの吸い殻も入っていました。中には、たばこの吸い殻を何本も入れたコーヒー缶もありました。子どもたちは、どんな気持ちで、このゴミを拾ったのでしょうか。誰が出したゴミかはわかりません。どこから飛んできたのかもわかりません。しかし、校地内は子どもの活動場所です。いつも気持ちよく、安心して子どもたちが活動できる環境にしておきたいと思いました。



